

D - 109

女官服
模範
色目

原田織維文庫

文庫4

1072



文庫4
1072
典侍

唐衣 紅二重織

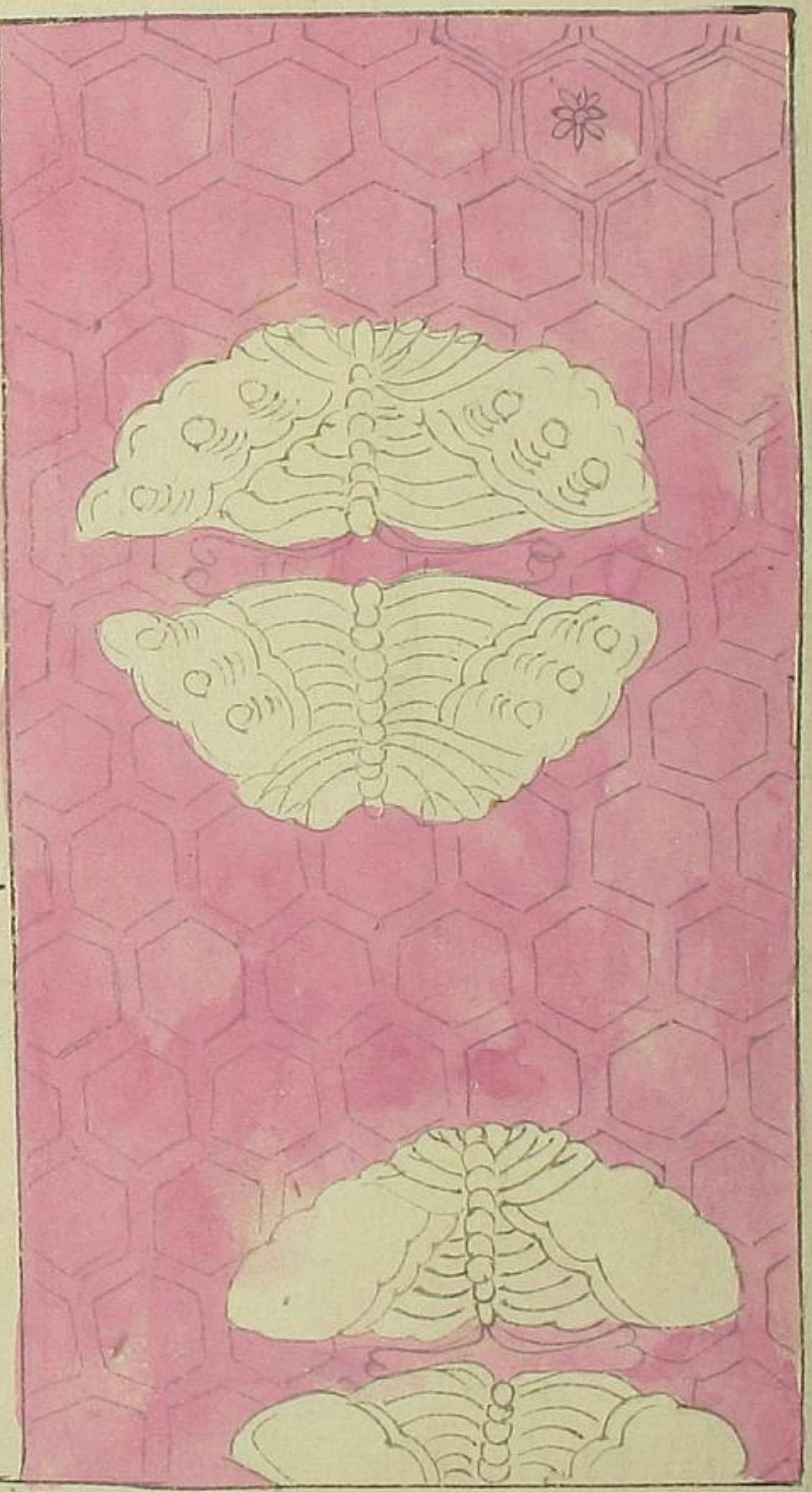
浮紋

地紋 龜甲上紋

蜂丸

臥八藤丸

紅打



地生
龜甲上

裏分朱
蝶白



昭和三十年十月二十九日
第一商学部より移管

小袂 蒲萄二重織物地紋 唐糸上紋 唐松

裏冬 紅平絹

裏白生絹

日徹正記物詰り 裏びきの
かさね えびづら のは

この如く びきのの
さみきり ちぢいさき

思ふたつたものなりしを

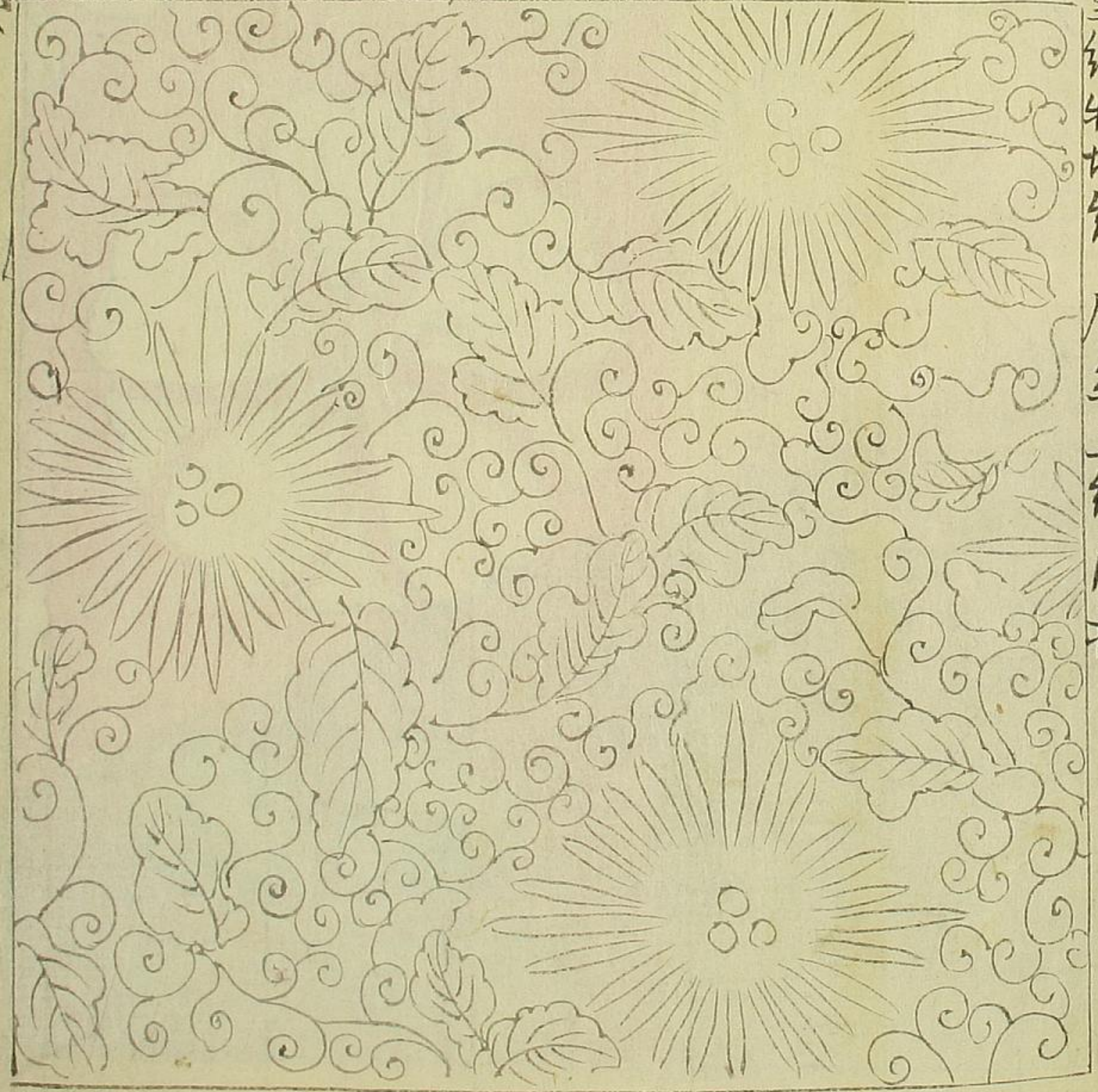
点ひのめといひ

日本記ニ 蒲萄 地ニガラウス

覚悟抄云 一カウ草ニカウ
スキリ又ア ガシマア

經糸緯糸 唐松白

又わたりさか ちぢいさき



五衣 緯白徑赤

同紋

白八重一重

櫻

裏同上

打衣 紅打平指

裏 紅平指

表 著 甘明黄唐花

浮紋

裏 紅平指

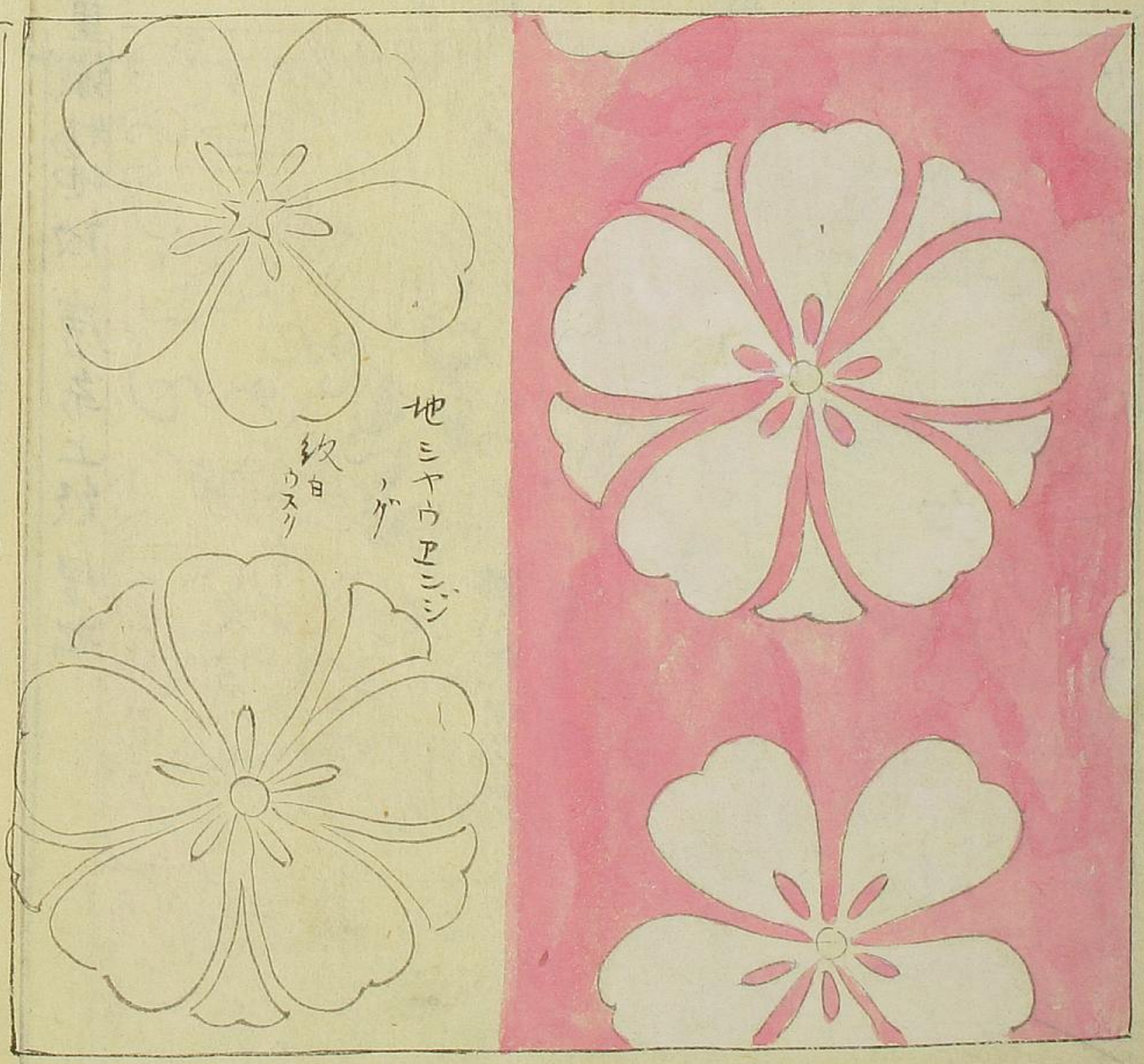
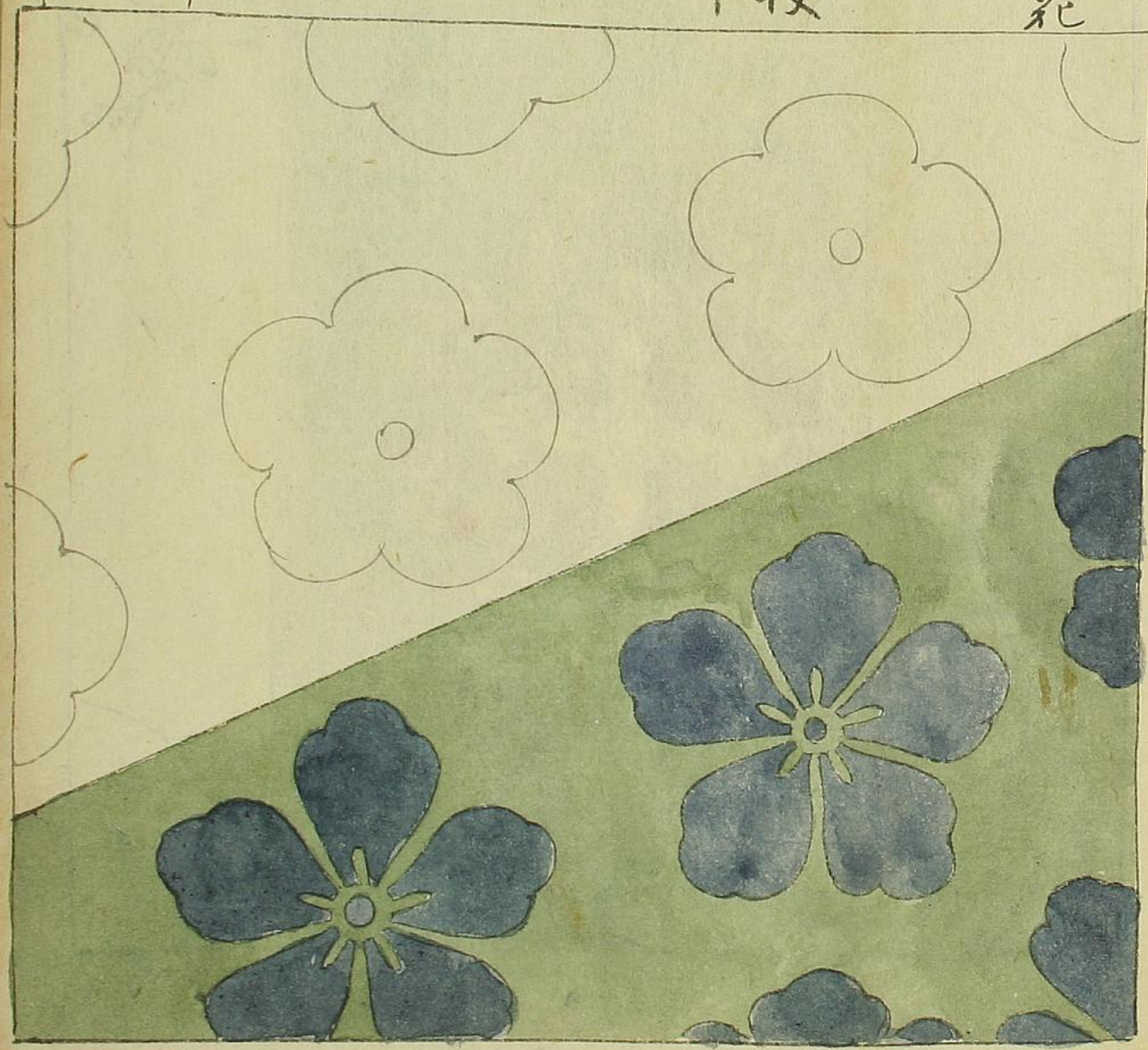
又 冬 紅葉折枝

复 楷唐州

地 草汁

紋 草汁

から どり



地 ミヤウエニシ

紋 白ウスク

内侍

唐衣 萌黄二重

織地紋入子

菱上紋、菱花

裏紅打平指

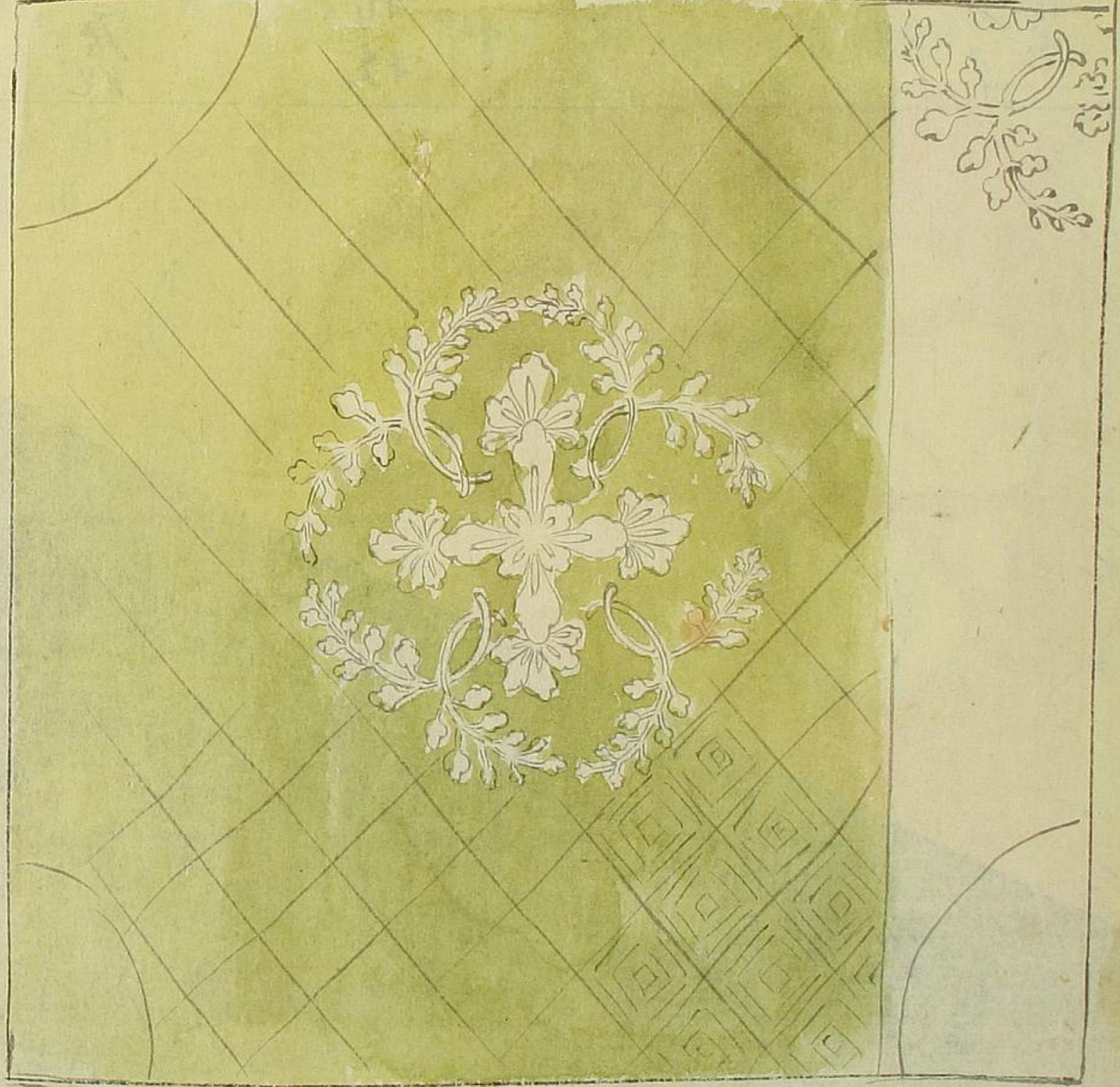
地黄ふり

菱の汁

菱紋白

紋、用、菱紋

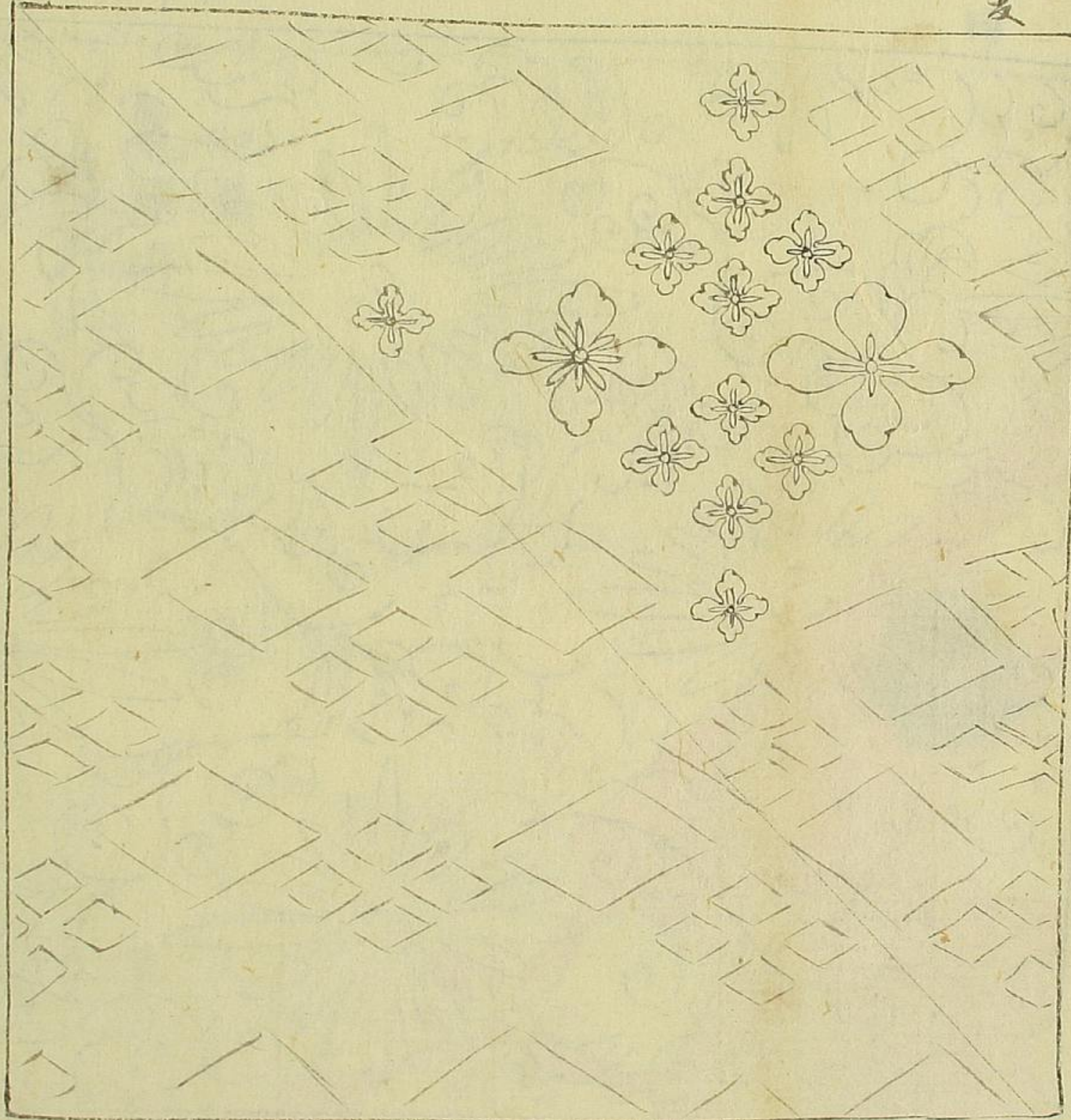
菱地紋草の汁
な



單 廿羽黄草菱

地草の汁

紋白採也



子夜

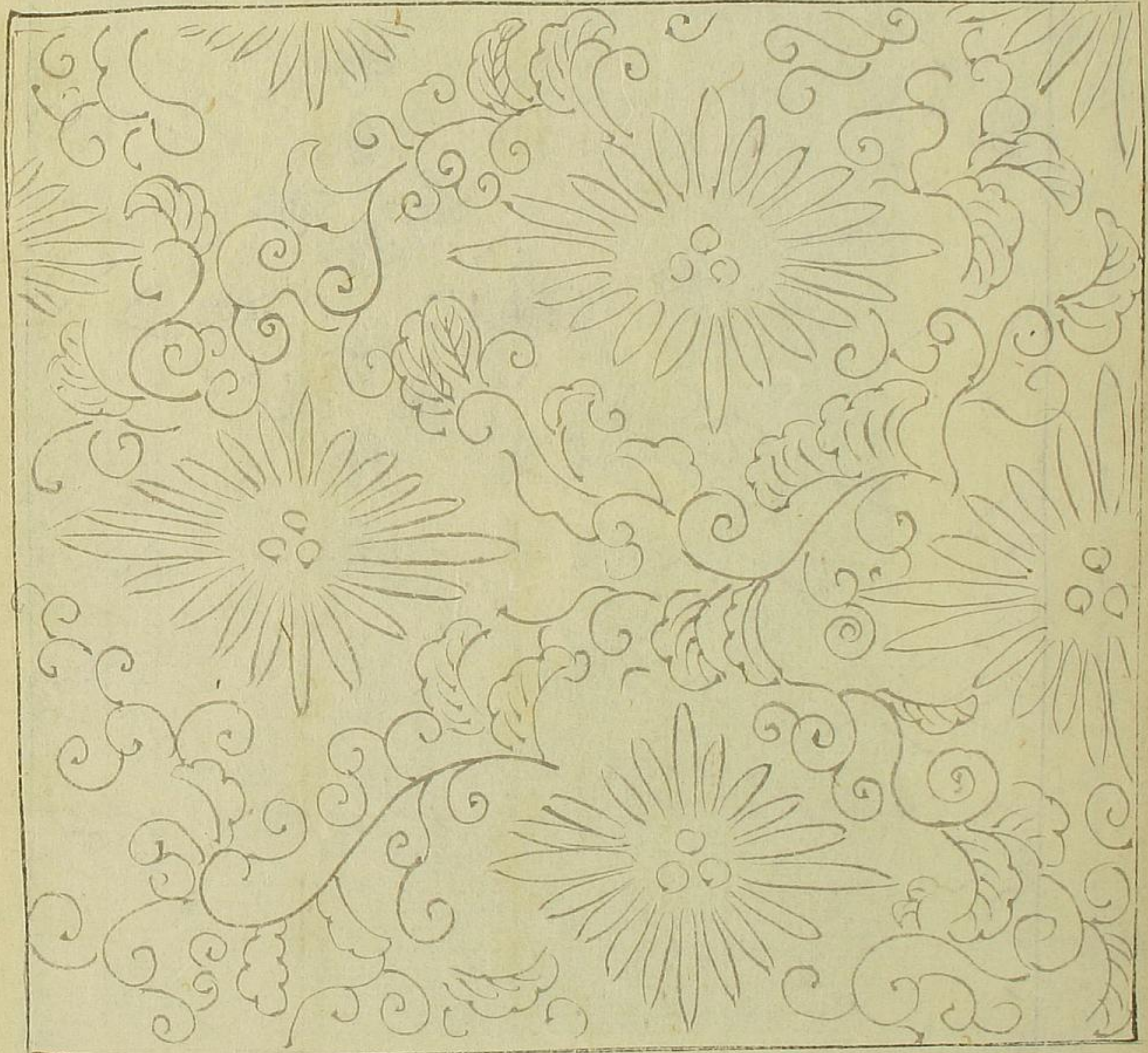
白濯松唐草

裏同上

地白

紋白ゴラン

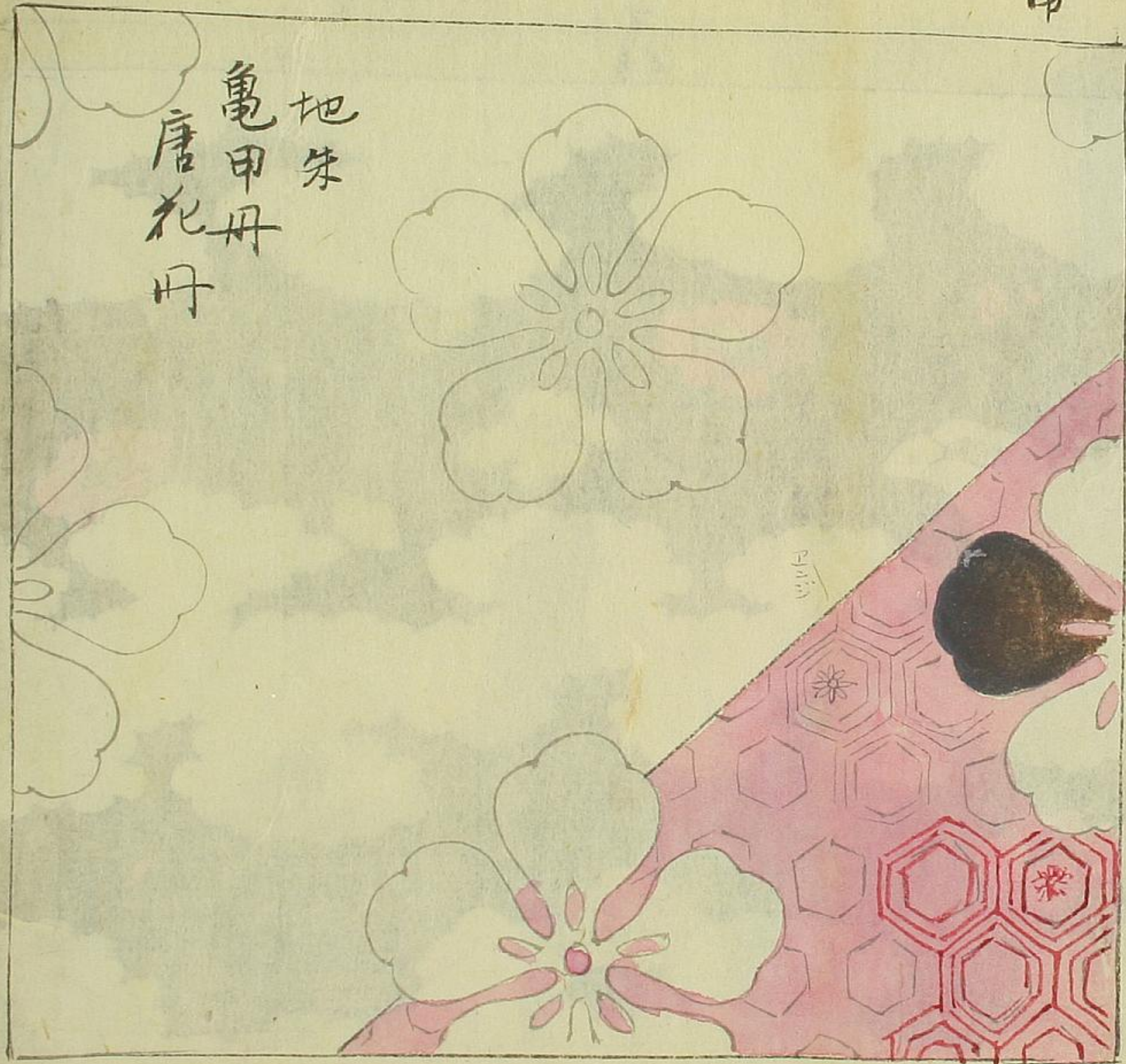
ユリヌリテ



表着紺亀甲

唐花

裏紅平箔



地朱
亀甲丹
唐花丹

采女

繪衣

白練雲形

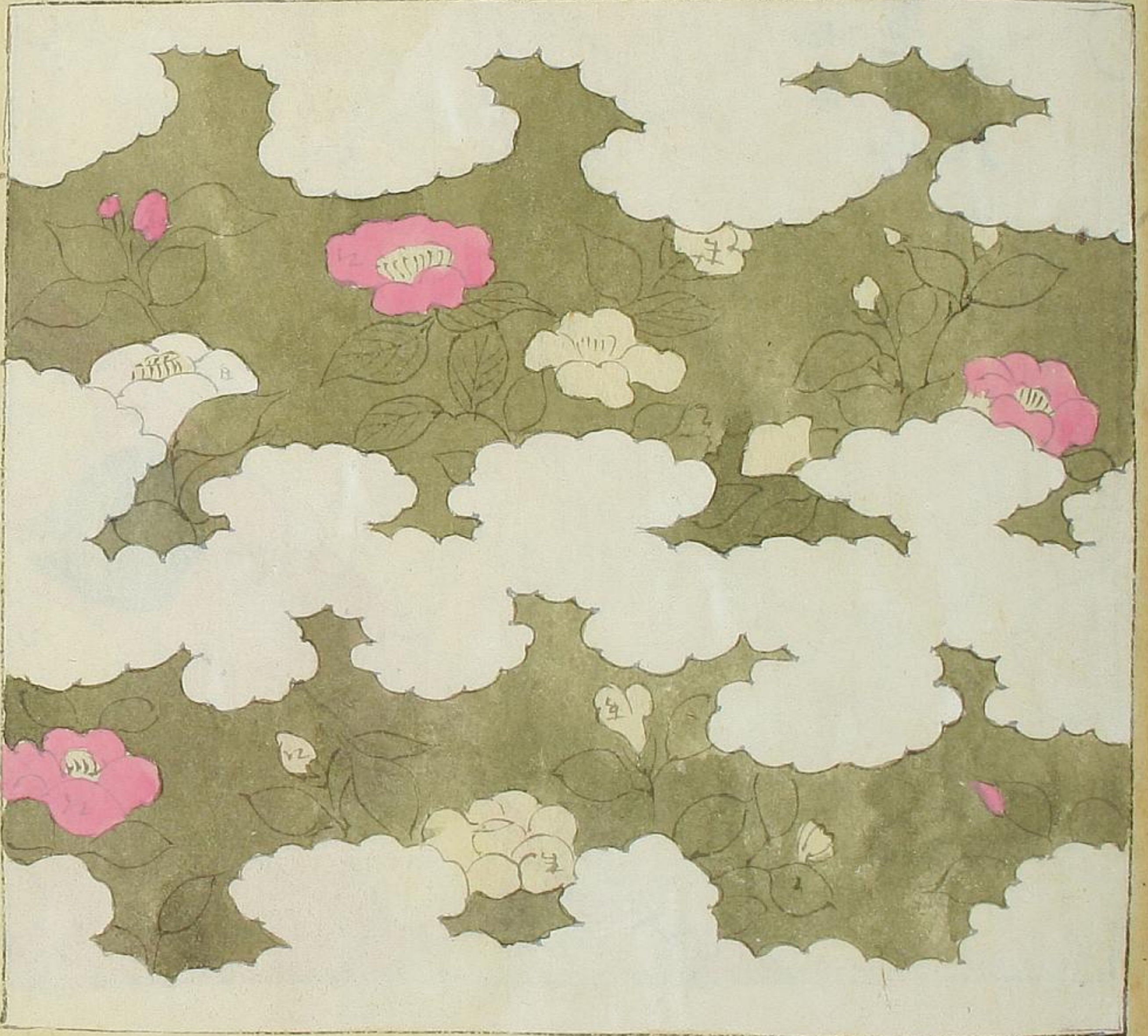
椿花彩色

裏 萌黃打

提袋朱白

白ハハユニシ

ハハユニシ



命婦

唐衣 白練

裏 萌黃打

平絹

五衣 萌黃

木口糸九

俗日ハハユニシ

裏 紅平絹



地 葉ハハユニシ

白ハハユニシ

白ハハユニシ

或五夜以色之
 四季通有様
 裏紅平絹
 以下唐下之
 紺坐織物
 唐花唐紙

地アイロウ
 紋ユキアサキ



舞妓
 唐衣紅練
 裏紅平絹

地
 芍力汁
 想紋白紙

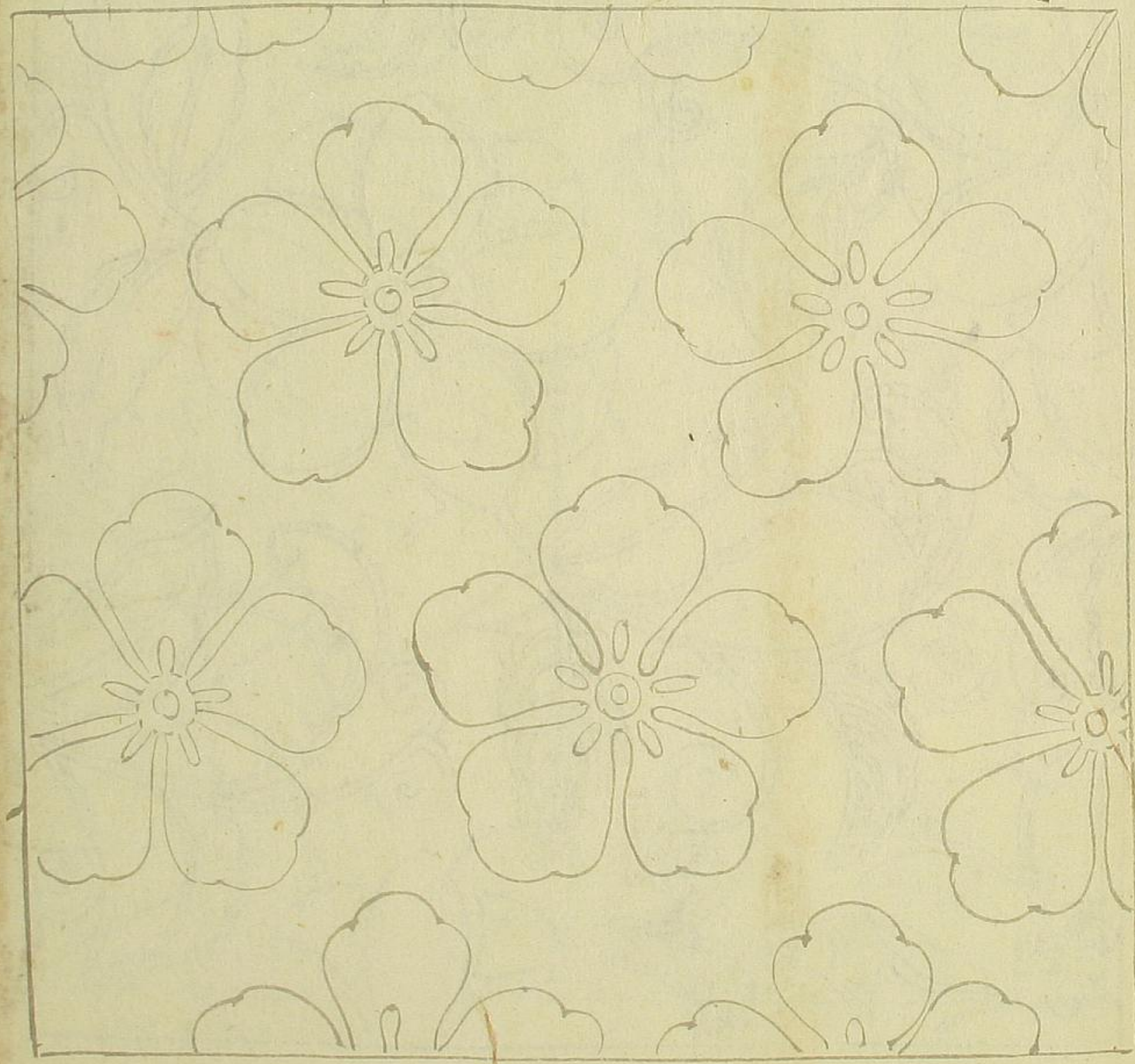


同織
紅八重梅

地朱
紋丹

同織
括葉
花

地シトニシツウ
カチタルヲヌル
黄ナリ
紋シドク



小地朱
丹

...

同織此之風車



地
正
シ
ノ
ク
紋
ハ
ニ
サ
キ

白桐厚巾



地
白
紋
白
子
ク
又
ル
之

裳 女御院中

地米花鳥繪

懸帶表唐衣同裏
白盤菱打

大腰 上老有
日糸

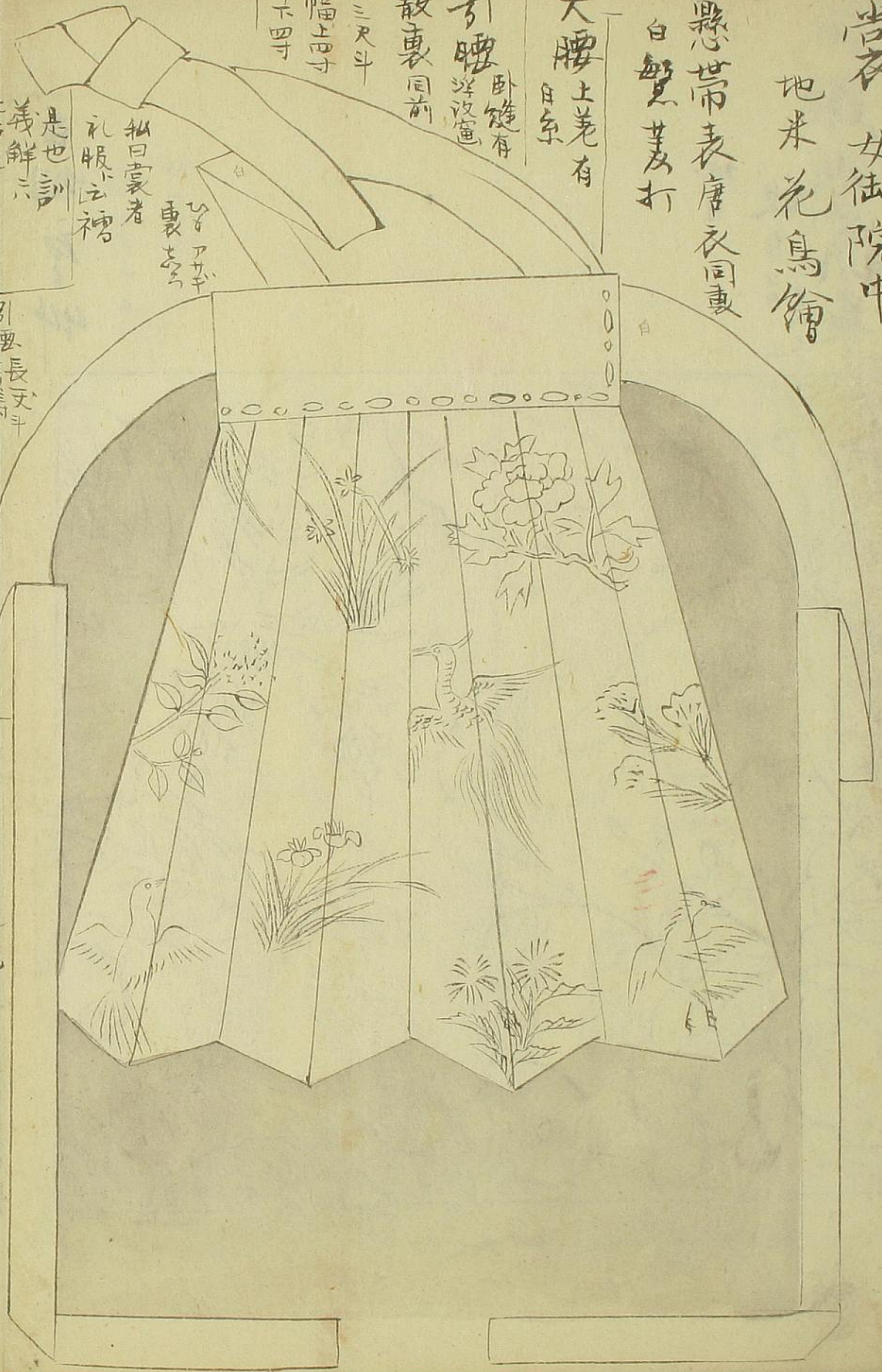
引腰 卧縫有
洋波畫

散裏 同前

長三尺斗

幅上四寸

斗下四寸



張袴

長五尺六寸余 一方三幅半 前幅一尺三寸
紀七尺七八寸 幅五寸余

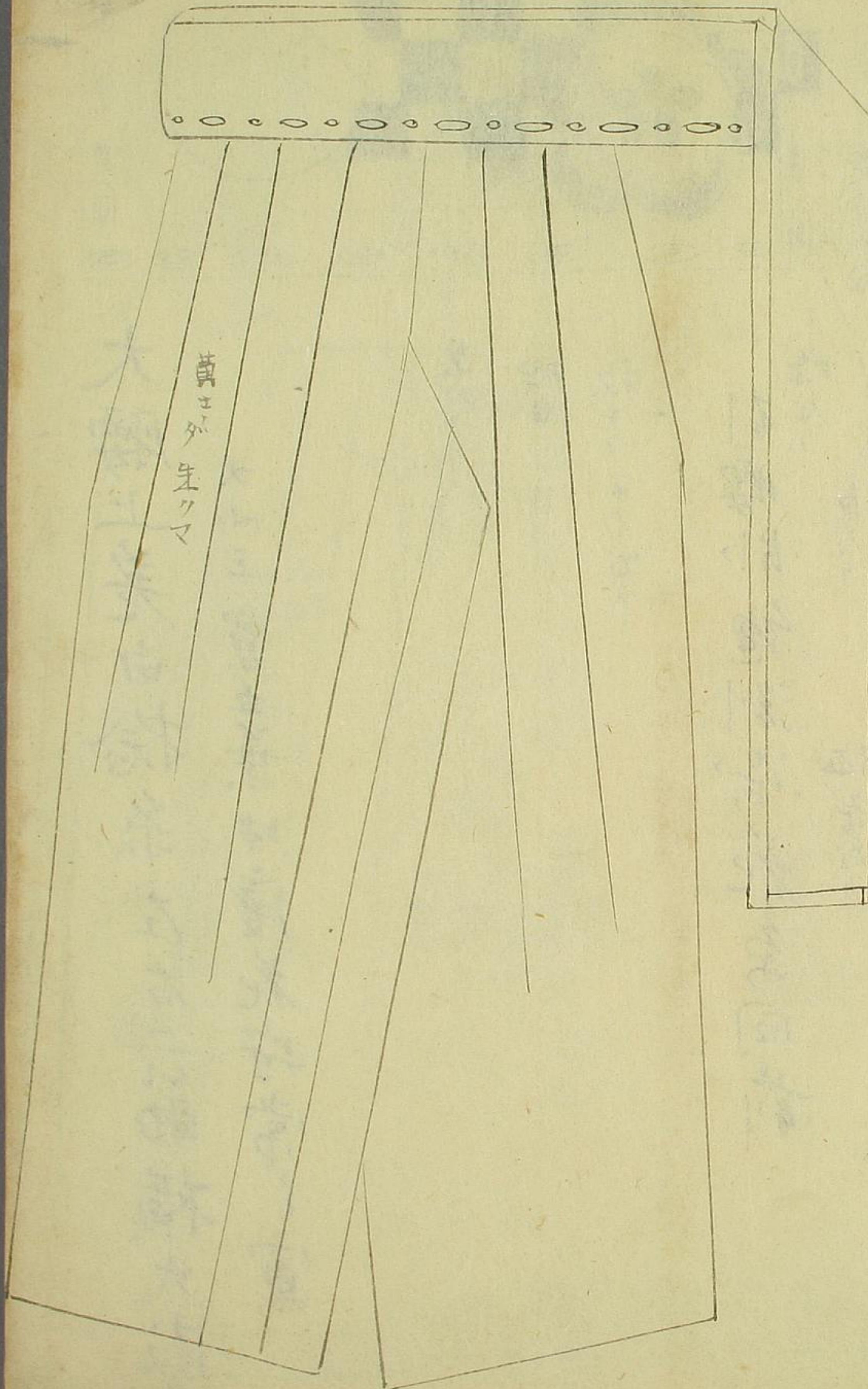
是也訓
義解ニ
ヒラニ
ニヒラニ訓

礼服之袴
礼服之袴

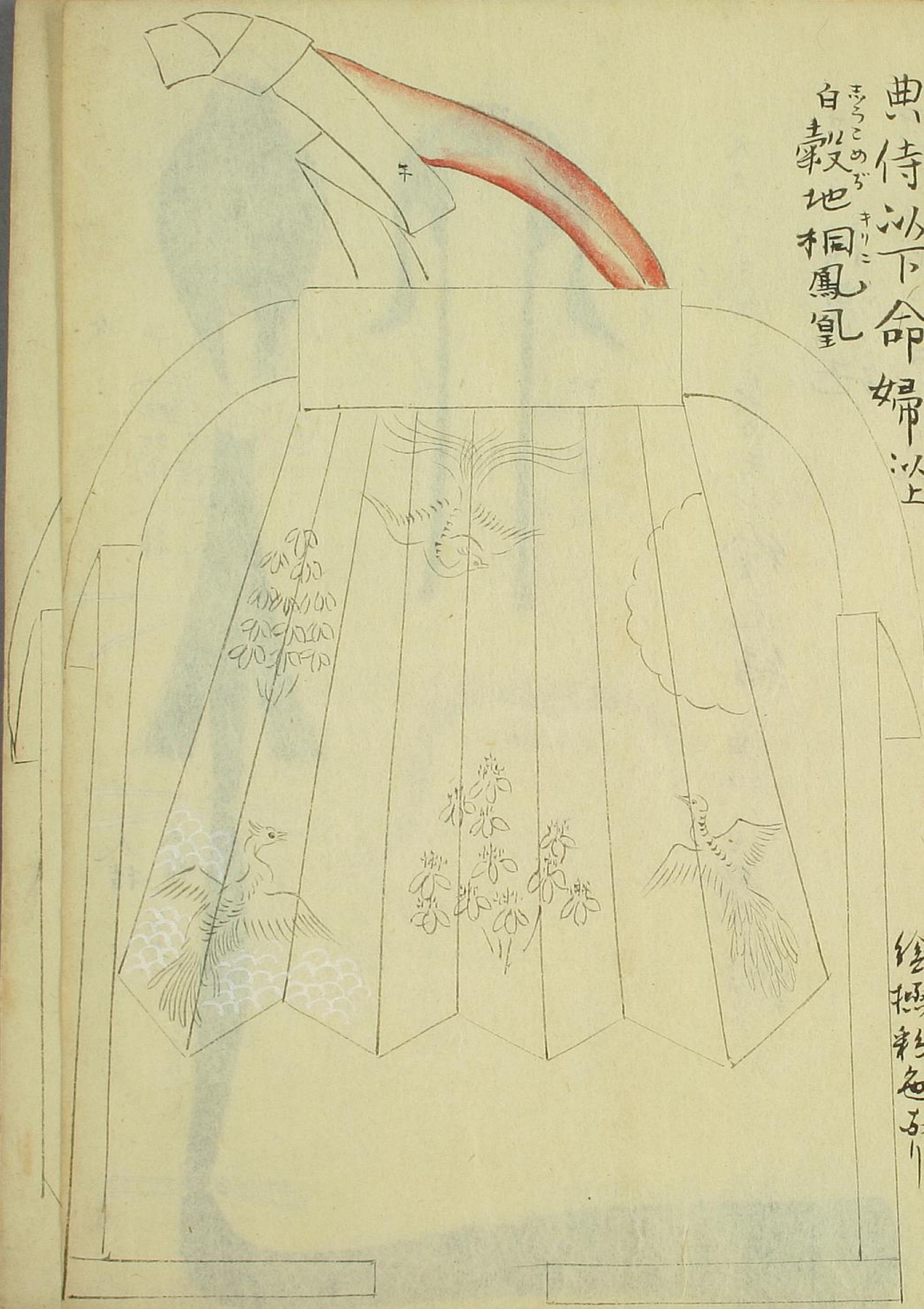
裏
ヒラニ
ヒラニ

引腰 長三尺斗
懸帶 廣三寸斗

會亟新色之地ハニニ相トス

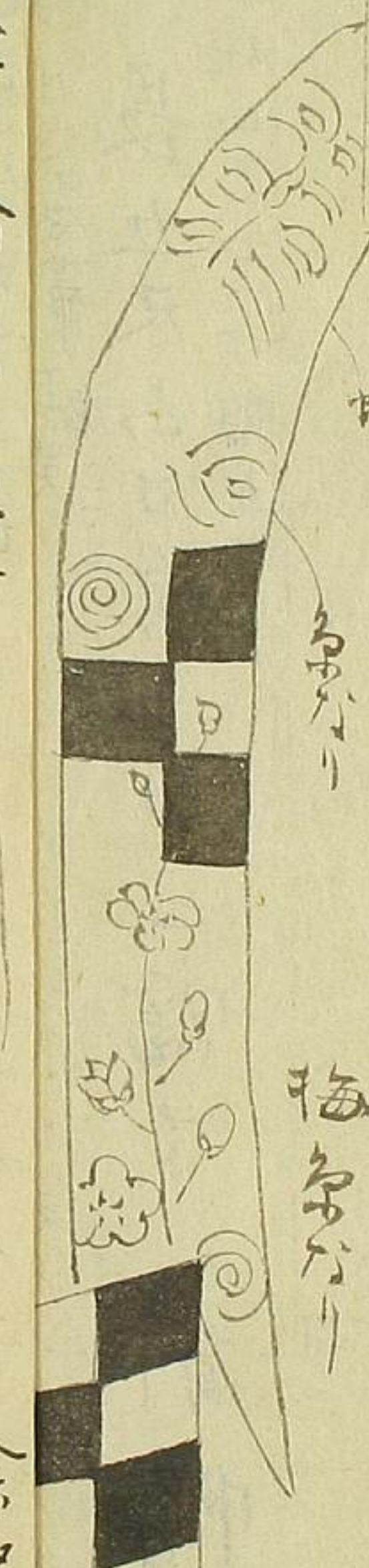
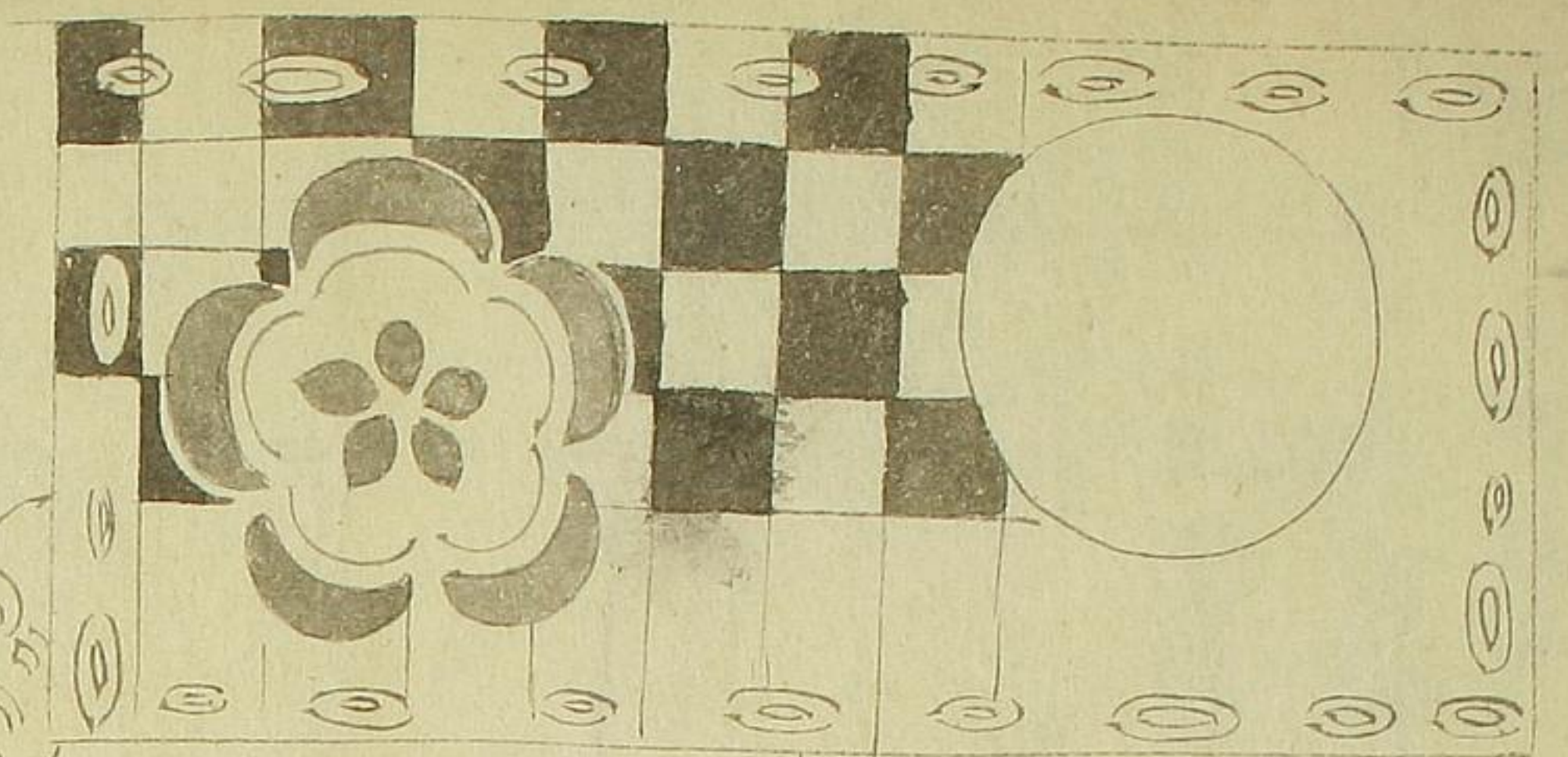


黄サガ生クマ



典侍以下命婦以上
まろこのぢ
 白敷地桐鳳凰

絵摺粉色あり



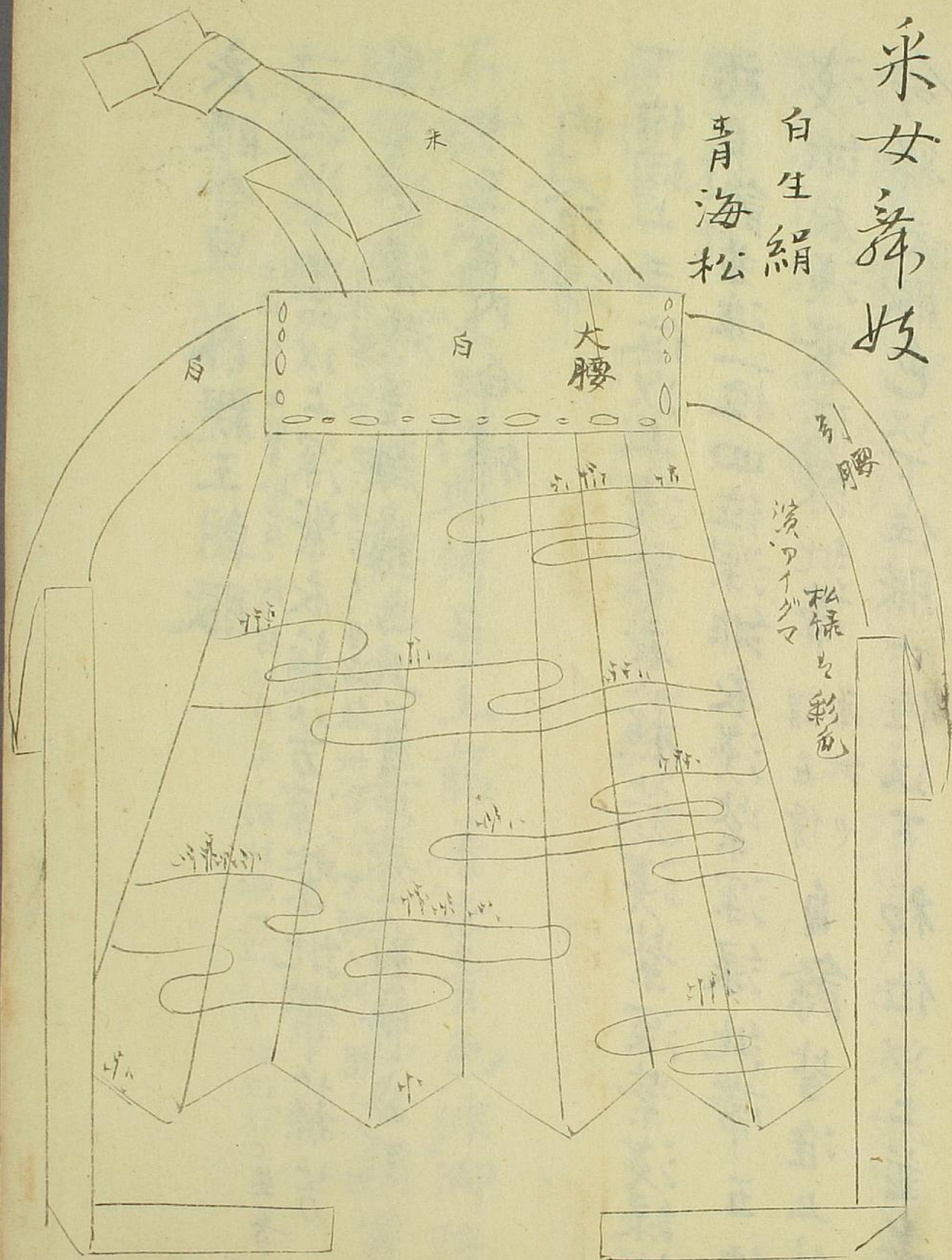
引腰外縫割法の花糸同前
梅糸あり

糸なり
 地白
 改キラマてセス

大腰上老白捻糸左右二以助横大小取
 大小三窠五葉中唐花守常之窠

采女舞妓

白生絹
青海松



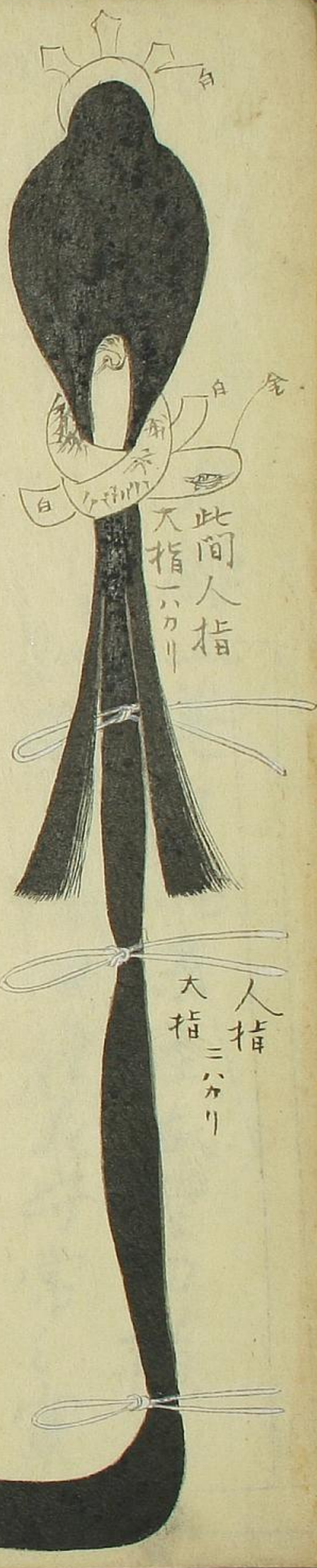
眉白ギハ白キホヒ

サイシ
村濃紀

大スベラカシ長カモシ
繪元結

白紅
小髷貝江のこ
コビン
サキ

金白



衣服令旨 內親王朝服

五位以上云寶髻及襜褕以外並同禮服六位以下初位以上並著
一員以下四品以上深紫衣義髻衣色在男夫深淺綠純帶深紫純帶襪方
深淺紫綠纈去纈白襪烏皮履四孟八則服之云云

女王准內命婦

內命婦

一位同上三位以上淺紫衣襪方淺紫深紫淺綠纈
裙自餘並准一位四位深排衣淺紫深綠純帶五位
淺排衣淺紫淺綠純帶謂在傍為純也自餘皆准上外
命婦夫服色以下任服六位以下初位以上並著

義髻

謂以他髻髻髻白髮是義髻

衣色准男夫深淺綠純帶

纈純裙初位去纈

禁秘抄

典侍畧候陪膳著禁色青色赤色

上鵠

不謂是非二三位典侍号上鵠著赤青色候御陪
膳也不補此等職聽色大臣女或大臣孫也猶或
不聽或聽之

小上鵠

不謂善惡公卿女号小上臈着織物並表着也

中臈

内待不着織物類也。是昔号命婦侍臣女以下也諸大夫良家下醫陰陽道等号中臈。中臈不取御服於局着須紫小袖。須惟事也。

刀自

衣唐衣躰也。結中ユウナカ但近代只衣結中着唐衣。是向御膳役者也。

女儒

近代不着衣只小袖唐衣也

唐衣カラキス背子唐織二重織或堅織物。夏冬色有裏

依表着

表着 同上

衣 同上

四百ニ裕のきぬもこれなりいりもちひ

すぬの地を唐衣なりあたりの布あや何もある細
ある布くつもお新布あへる衣るて
その内志るふ出る七十も出る

かたむらさき 鳥の心をよる ねむる
ひらひらまゝに ちりちり ねむる ねむる
ニワニワ子細なまゝに

ひとく、衣更のひとくを 桂のまゝに
かたむらさき ちりちり ねむる
をもちひらきまゝに ちりちり ねむる
さぬにきまゝに ねむる
あやトを ちりちり ねむる
平清にまゝに ねむる

深く 泥のなかり ちりちり ねむる
おりの九り ちりちり ねむる

高の思 ちりちり ねむる
ねむる ちりちり ねむる
ねむる ちりちり ねむる

ウチキキ
折衣

表紅ち 繁菱 表紅 平信

ねむる ちりちり ねむる
ねむる ちりちり ねむる
ねむる ちりちり ねむる

折衣 表紅ち
又 説同 織

衣と裳と乃るヲ着せらる
定基卿を亦衣と襪同くなすべしと云
せらる

單 辛菱綾色目同上

引柯 引柯 其を紅或はこま引柯なりをを何れをも
單祿り こま としをひくをぬり引倍木
加ぬる事 し たり引柯をひくの下り

裳 モ 襪 ウハミ 袴物同上

志いらいらを裳のこまなり男を袴の下り

若女をから裳のこまなり

衣眩令集解云 本ノミ 云女襪服裙上耳 疏曰

婦女服襪裙男襪加表袴上女襪先着

襪而領領裙表る襪下端頭也

男襪者禮服着之 天子黼黻藻木

諸臣縹四維畫黻

小腰 懸帶

大やういらきぬ乃被より出るるもの也

すなわちいつねもあまとおきおけり衣は
いとくろ福流只あやあちいさうな
ふるふア人さすひるふ二すあ

ふうしきこつくとまふーあまのしほあ
ううすへーあまひめかまぬーうハ
さーのひーあ

大腰

白緩浮儼あ窠ツツコ霰アラシ表同上

ふるふこ人さすしうすア守ああくハ
はーあ

引腰 同上

裳のこおし長さ一丈又六尺寸より唐
衣以下色々ありて右衽の依り也

張袴

仁のまを袴を祝の時濃江袴を執衣の時
生のぬの袴はまをあふーあま赤衣八領或
六領或七領以下けまきとうゆときなり
あまいとくまふのうまをうぬとまる近代
を小袖を着用也

祭祕抄 袖近身衣也 今祭ノ祿是也表紅赤ノ後小
祭表ニ平俗也

細長同上

幼少のき女の着る物あり
童形上も細長をきるや皇太子幼童の時に着
のい減あり又未通女のきよあこかり
きぬのきひくの中より多き、三つあハ
可のきふり志うれとも人わくく
君たち女侍ノ系のとす、とふ、きぬの着る
きぬ、但、細とくすなり

用細長の時不用袖襦亦是先例也

表襦表白綾窠霞浮紋表紅赤

童女を膝の時、赤襦の上、表襦をきる、尋

常、着せん

帷 雜仕着用途、有、不着、衣表着

扇 杵横目、五枚表、以、金箔、彩色、畫、雲、形、松、竹、鶴

亀、表、蝶、鳥、之、厨、五色、系、長、三、人、餘

アハジ、結、ハ、松、橋、以、糸、作、付、之

ひめ宮御のころ
と云ふにぞと
いひくまの女君の浮柄、沈、引、表、彩色、和、漢、人、形、式、お、語、し、繪

若の三層をいぬをこらひつちりくお破りの俵うらひ泥塗の標多今もかく也
奇と在り
表泥繪蝶鳥骨表之方二付同んむと云也

釵子 吟金銀作紋六里鉸鈕 村濃ミツグリ

儉元錯 白紅 小鬚負前 鳥子紙細指

尻切 雜仕 御櫃洗 所著也

帯をさへその上精好の紐は袴を若用

まをこれと腰巻といふ表白帯は

そく金銀りややつ帯表白袴好

女院のくりやうけと肩とぬいど袴

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也

女院のくりやうけと肩とぬいど袴

白何ぞ也

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也 瑞午より 白少神

白何ぞ也 瑞午より 白少神

重糸をよらぬ事

くろくしきしき必入のりめ

長かき下幅表使ま

中と女孺はまのいそりそり

めり神中と上入大走ら

まーと

如女孺

或説法蘭此書中院大細を通る所祿を以て切人の糸也
依將軍家所定密社近歲云不知其實説

享保七年寅二月十九日合書写早

お女房唐衣等之織糸目糸色
所為圖可見大概者也

早稲田大学図書館

011488481063